

## 議事録

会議名 令和4年度学校防災教育に係る気象台との懇談会（第2回）  
日時 令和5年3月15日（水）16:00～17:30  
場所 札幌管区気象台 大会議室  
次第・出席者 別紙のとおり

### 1 議事

#### ➤ 防災教育の学習素材ウェブページの更新について

札幌管区気象台総務部業務課リスクコミュニケーション推進官 望月隆史

防災教育の学習素材ウェブページの更新内容を紹介。以下概要。

更新のポイントは5つある。

1 点目…検索機能を強化した。これまでの「学年」や「単元」に加え、新たに「天気」や「地震」、「津波」、「火山」といった「分野」での検索と、「災害事例」や「動画」、「写真」といった、中身がどのような資料なのかという「形態」で検索できるよう追加した。例えば「分野」で火山の資料を探したければ「火山」を選択して検索すると、火山の資料に絞り込まれる。

2 点目…災害事例を追加した。この災害事例の追加については、教科書に載っている事例を特に意識した。具体的には、まず平成28年に北海道に3つの台風が上陸したときの大雨の事例や平成12年の有珠山の噴火を追加した。また、これは教科書というよりも札幌で起きた事例ということになるが、昨年度の札幌の大雪の事例を作成した。

3 点目…近年、学校でもインターネット環境が非常に良くなったということで、これまで学校で扱うことが難しかった動画資料を追加した。気象庁の中でも動画を使ったコンテンツが非常に増えており、代表的な物として気象衛星ひまわりの観測画像を紹介する。例えば、令和元年東日本台風とも呼ばれる2019年の台風第19号が、どのような動きだったのか、動画で見られるようになっている。

動画ではもう1つ、札幌管区気象台の動画サイトチャンネルを紹介する。例えば、「天気予報のお仕事を紹介」は、昨年夏の見学会の際に作成した動画である。現在コロナの影響で気象台を見学できないが、動画で見ていただくことで気象台がどのような仕事をしているのか知ってもらえるよう作成した。

4 点目…気象台も様々な機関に協力して資料を作成することがあり、そうした関係機関のページをいくつか追加した。代表的なところで、札幌市の雪学習のページでは、学習の資料をパッケージとして用意している。気象データ等を使ったものがあり、こちらに協力等をしている。その他、例えば内閣府が作成した火山のページでは、火山はどういうものなのか、動画を使って解説している。これらは関係機関の許可を取った上で掲載させていただいている。

5 点目…編集に関する部分で、同類の項目をまとめた。例えば、現在のページでは、例えば温度計、湿度計などを「気象測器」というページにまとめた。これについては災害の事例についても同様で、平成28年の3つの台風の上陸については「北海道の気象災害（大雨や台風）」に組み入れた。雪に関しても災害事例を「北海道の気象災害（大雪や暴風雪）」にまとめ、昨年の雪がどのような状況だったかという資料を作成して掲載した。

以上5点が主な改修のポイントである。この防災の学習関連資料についてのご意見があれば、今後の更新の参考させていただきたい。

● 意見・質疑

(委員) 整理されてとても分かりやすくなった。特にカテゴリーがまとまっているのが探しやすく良い。理科の地学的な内容の単元で学習する中身がうまく網羅されていると思う。このページに資料があるということが、先生方に早く伝わっていけば良いと思っているが、検索エンジンでは、このページが見つからない。学校の中でも先生方に機会があったらお知らせしていきたいと思っている。内容と整理についてはとても良くなった。

(気象台) 前回の懇談でも、作成当初はしっかりと周知できていたが、段々と周知しなくなって認知度が落ちてきたのではないかと、という議論があった。気象台としても更新したので、これをどう活用していくか、しっかりと考えていかなければいけない。その際にはまたお知恵を拝借することもあるかと思う。

(委員) 3点お伝えしたい。1つ目に、最近の事例が入っているのは大変ありがたい。やはり教科書等を使うと古い事例が多かったり、札幌以外の事例だったりすることもあるが、できるだけ子どもにとって身近な事例が使えると、子どもたちにも伝わりやすい。

2つ目は、周知に関しては先ほどの意見と同感で、とても良い物があってもそれを知らないのはもったいない。例えば気象台から配布する資料やチラシ等に、このページについての案内や二次元コードを掲載すると良い。今は子どもたちも二次元コードを使える。本校では4年生が総合の授業で、防災について学習する際に活用できるのではないかと思う。場合によっては、どこかの単元をパッケージ化するのも良いと思う。

最後に、先ほどの雪に関するページは使い勝手が良さそうだが、その時の雪の様子の写真や新聞の記事など、天気図以外の付加情報もあると、教師がそのページを見たときに、このような降雪のときの天気図はどのような気圧配置で、周りの状況もどうだったかということが分かりやすくなるのでは、と感じた。

(気象台) ご意見も踏まえて今後考えていきたい。

(委員) 教師用としては非常にレベルが高く、必要な情報が網羅されていて素晴らしい。今、話にあった周知に関してや、どうやって活用していくのかということのをうまく伝えられると、せっかく作ったものがたくさん活用されて良くなるのかなと思う。

別の角度からの意見として、この気象台のコンテンツを充実させてきた背景に、子ども向けという部分がある。おそらくこれは基本的には教師向けなのかなと思う。資料自体を変える必要は全くないが、子ども向けの入口を作ると良いのでは。今は1人1台のタブレットを持っているので、子どもたちも自分たちが調べたいものに出会うと、どんどん自分から調べていくことができる。以前とは完全に環境が変わっている。このページの一番右側に学年が書いてあるが、例えば、その学年を入り口にして3年生を選択すると、3年生向けの内容が表示され、調べることのサポートをするような、子ども向けの入り口を作ってはどうかと思った。

もう1点は、気象台とユーザーの双方向の部分を入れられないかと思う。全てを気象台で作ってこのホームページを充実させていくというのは、多分苦しくなってくると思う。例えばよく天気予報のコーナーで、「自分の住んでいる所では今、雪がすごく降っている。」という紹介がある。そのような形で、子どもたちから、例えば「大雪について学校でこのような勉強をした。」という投稿や、先生方からは、「防災に関してこのような指導案で、このような学習をした。」という投稿をしていただく仕組みもあると、より充実するのではないかと思う。そして気象台が常に最新の情報をアップしていかなければならない所からも解放されるのではないかなと思うので、少し考えていただければと思う。

(気象台) また違った観点からのご意見で大変ありがたい。

➤ 懇談 第1回懇談会のフォローアップ

「本懇談会の取り組む方向性と方策について」(資料2)

(気象台) 第1回懇談会の振り返りとして、前回の議論をもとに懇談を行いたいと思う。一番大きな検討課題として、この懇談をどうしていくのか、という投げかけがあったかと思う。それについて気象台としての意見を説明させていただく。

運営要領の「目的」を読ませていただくと、「気象や地震、津波等の自然現象による災害の防止・軽減を目的とした学校防災教育を推進するため、防災教育に取り組む上での課題や、効果的な防災教育の手法等について、有識者、教育関係者の方々に多角的なご助言やご議論をいただく場として本懇談会を設置する。」という目的になっている。その後ろに「また、効果的な防災教育の手法等については、本懇談会において資料の作成や実践、公開授業などを実施することにより、作成した防災教育資料を含めて普及を図るものとする。」という目的であると運営要領に書かれており、そのように理解した。

大前提として気象台としても、防災教育というのは重要なテーマだと考えており、気象台が学校の先生から直に意見を聞ける場として重要ではないかと考えている。

前回の最後に具体的な事例として、研修も含めて4つほど、どういったことができるかを選択肢として挙げており、個々についてはまだ具体的な取り組みの検討は煮詰まっていらないが、少なくとも懇談の場は気象台として非常にありがたく、できれば学校の先生方にも役に立っていると思っていただければ良いと考えている。

その上で、開始から10年が経って世の中の状況も変わってきた。また、委員の先生方が授業を持たれていない状況になってきた。学校現場のご意見や感想を伺えると良いと考えており、率直に申し上げると、新しい先生に加わっていただくのは可能であるかということも含め、ご意見があればお願いしたい。

(委員) 基本的に私を含めて担任を持たない委員ばかりであるため、実践をする上では、担任を持つ新しい委員が懇談会にいることは、防災教育を生かすという意味でもありがたいと感じている。ただし、どのように選び、誰が加入するかという点については、校長先生なりに選んでいただく必要があるのではと思う。

(委員) 先ほどのお話にあったようにコンテンツの発信は良い方向で進んでいると思っている。コロナが終わって、研究会などを始める学校も少しずつ出てきているので、公開授業というような形で先生方に知ってもらうとか、または、こんな風にやったらいいですよ、ということを知ってもらうと良い。以前も夏休み、冬休みの研修会には参加される先生方が大変多く盛況だった。やはり実践で、こんな風にやると良い、ということ発信できると一番良いかなと思う。自分たちは授業ができない部分もあるので、授業をできる方に、また各教科加わっていただくか、それと合わせてまた夏休み、冬休みの研修会を進めていくかになるかと思う。こうすると良いという意見をはっきり言えないが、このようなことを考えている。

(委員) 前回の立場は、これまでやってきた10年間を継続するという立場でお話ししたつもりだった。私は最初の年から参加させていただいているので、最初にこれを作った思いや経緯等を背負って発言させていただいたつもりである。ただ、やはり十年一昔である。10年続いたということは素晴らしかったと思うが、今と10年前とは状況が大きく変わっている。コロナもあって、学校現場も含めて社会も大きく変わってきている。そういう中で、「ねばならない」ということは無いと思う。新しいメンバーで、札幌管区気象台として、防災教育をどう扱っていくか、ということをもう一度考えていけばよいと思う。今までこうだったから、これからはこうしなければならない、ということではな

と思う。今回、取り組まれたこのホームページの教材作成も、今まで以上に充実した中身になっており、気象台としての取り組みの大きな柱になるものだと思う。

前回の懇談会であがった4つについて、1つ目が「出前授業」、2つ目が「教材作成」、3つ目が「授業づくり」、4つ目が「研修」という、この4つの課題のことだったと確認した。しかしこれは10年間の、これまでやってきた懇談会で考えたことであって、これから新たにまた10年間を見据えてどのように取り組んでいけば良いのかということを考える良いチャンスではないかと思う。我々は授業を持っていないため、実際に防災教育が教室で行われている様子を見るしかない。担任を持ち、授業づくりができる先生方に新たに加わってもらって、その先生方の実践のもとに何か考えていけるような、そんな懇談会にしてはどうかと思う。

(気象台) これまでの成果は成果として、引き継ぐところは引き継いで、新たなところは新たに進めていくということで理解した。「出前授業」、「教材の作成」、「教師と協力した授業づくり」、「教師向けの研修」について、気象台の方で煮詰まっていない中で申し訳ないが、もう少し話をさせていただきたい。

まず、「研修」が大きいところだったと思う。私自身この懇談会の話を知っている中で、研修会にたくさんの先生が参加されたと聞いている。一方で、その運営についてはだいぶ労力がかかったと聞いている。素晴らしかったのだろうなとは思いますが、研修について引き継ぐのか引き継がないのかも含めて気象台で検討したい、と前回お話したが、これに関してご意見があればいただきたい。

もちろん研修そのものをもうやらないというのも一つの手だと思うが、一方で何らかの形で行うことができないかということも検討したいと思っている。その中で気象台としては今の学校の実態についての情報がないため、仮に研修を続ける場合に、先生方に何らかの研修を実施できるアイデアがあれば、お伺いしたい。

また、勉強会等も再開しつつあるとのお話があったが、例えば気象台がそういった場に参加して授業の授業、のようなすることは可能か。

(委員) 研修会のような、参集して授業を検討するようなことは少しずつ始まってきてはいるが、学校の研究会もあれば、研究団体の研究授業もある。そこに入っていくというのは、研究団体の研究があるので難しいと思う。そのため、研修会を実施するのであれば、この懇談会が運営中心となった研修会になるのかなとは思っている。社会科も理科も、研究団体があるので、そういったところに協力を要請することはできるかもしれない。例えば北理研の大会は、次年度は本通小学校で全道大会が行われるが、そこに防災の授業をポンと持ってくるのは難しいかなとは思っている。やはり、こちらはこちらで計画していく必要があると思う。

(気象台) 承知した。他の研究会等に加わるのは難しいと理解した。

(委員) 社会ももちろん連盟等で授業づくりをしているが、あくまでもテーマがあるので、防災主体で行うということにはならないのではないかと。仮に防災関係の単元で行うときに情報共有してもらうことは可能だと思うが、気象台が関わるができるかというのは、難しいのではないかと。また、例年通りの研修会の中で何ができるかなと考えてみても、できるとしたら実践例を見せたり、模擬授業をしたりすることが中心になるのかなと思う。

(気象台) 社会の方でも、今あるところに入っていきは大変と理解した。

(委員) 多分この研修会というのが一番大変な部分だと思う。10年間の中で、うまくいったときもあるが、なかなかうまくいかなかったことも多々ある。それは内容が決まらなかったり、参加者が集まらなかったりなど、紆余曲折があったと思う。先ほどお話しした内容と重複するが、一度やめてはどうかと思う。

もし私がやるのであればということで、1つは、気象台が私たち教師に知ってほしい情報があって、それを広めたいという思いがあり、そのための研修というのが、もともとのスタートであった。その中身は緊急地震速報だったわけである。気象台が緊急地震速報をどうやって周知すれば良いか、とパンフレットやポスターを作成する中で始まったのが研修会だった。したがって、緊急地震速報に変わるような新たな情報を周知したいのであれば、気象台主体で、その中身を先生方にお知らせして、例えば授業の中でこんなふうに子どもたちに知らせることができますよ、ということを、学校の先生側が担って研修会を作り上げることができる。これが1つ目である。

もう1つは、新しい先生方が加わった後について考えると、例えば先ほどのホームページにあるような素材を使うとこんな授業ができますよという授業ベースでやる研修会である。

もしやるとしたらこの2つではないかと思う。その内容が無い中で、研修会をやることありきだと相当大変なことになると思う。こういうことを伝えたい、こういうことを周知したい、こういうことをお互いに学びたい、それがあって初めて研修会だと思う。それがこの10年間でいくと、後半から夏と冬、年に2回やることが前提になってしまい、研修会ありきになってしまった部分があったように思う。だから一度リセットして本当に必要なかどうかを考えて、これだったら必要だよねということがあるのなら、また研修会を行えば良い。

(気象台) おっしゃる通りである。伝える内容がなくて研修会ありきということは無いと考えている。補足させていただくと、研修会を実施したくて研修会について意見を伺ったつもりはなく、気象台としてももちろん伝えたいことはある。緊急地震速報以降、色々な新しい情報が増えており、その中にはやはり、防災のために小学生から知ってほしい情報がある。あるいは普通の天気予報や注意報、警報にしても、新しい情報ではないが、ちゃんと知っていただくこと大事だと思っている。だから研修会ありきで言っているつもりはないが、一方で気象台のメンバーは当時から長く関わっている職員もいるものの、当時から変わったメンバーも多い。そんな中で先生たちが今どういう状況に置かれているのか、もし研修会を実施するならばどういった条件があるのか、どういうやり方があるのかを知りたかったためである。

(気象台) 冒頭で、学習資料のページの更新について、ご紹介させていただいた。前回、「教材の作成」という話題があったが、それに関連して、先ほどのようなウェブページは実際に学校での授業にどの程度役に立つのかなど、コメントをいただければありがたい。そのまま使える、あるいは先生たちの勉強になるなど、例えばウェブページを教材として考えたときにどうなのかという観点で意見をいただければと思う。

今のウェブページのコンテンツの掲載順は気象台側で考えているが、一方で、学校の授業は話の流れがあると思う。授業の中で、このページを使うとしても上から順に使うわけではなく、必要なところをピックアップして使っていく形になると思う。その際、このページはこういう授業に使える、といった意見があればお願いしたい。

(委員) 授業がコロナ前と少し変わってきている。コロナの前は、やはり一斉に授業をすることが多く、指導者のほうで画像を見て一部分として使っていくことが多かった。しかし今は、一人一台端末があるので、知りたいことを自分たちで調べるといった活動の仕方に変わってきている。

先ほど素晴らしいなと思いながら、委員の話を知っていたが、子ども向けの入り口があって、そこに行くと色々な情報があり、先生ではなく子どもが選択できるのは良いと思う。さらに、子どもたちが自分で学習を進めていくので、子どもが知りたいと思ったことを専門の方に教えてもらえたり、コメントがあったりなど、そのようなことも子ども

もたちの学びの意欲を高めることになると思う。だから、資料のあり方についてはもっといい方法があるかもしれないと、先ほどのお話を聞いていて思った。

(委員) まず1つ、このページにたどりつくまでが難しい。なかなか気象台のページを見てもここの素材まで辿りつかないので、そこが簡単に見つけられるようになるだけでも違うのかなと思う。

あとは誰向けにするかという点である。一人一台端末ということを見ると、子どもが使えるような形になっても良いし、先生がここのページを使う際には、どの単元で使える資料なのか絞り込みができるので、使いやすくなっているのかなという気がする。自分としては、他のいろんな関連資料があると、より使いやすくなるのではないかなと思う。

(委員) 先ほどもお話した通り、資料への入り口と周知について検討すると良いと思う。

(気象台) 承知した。今、お話のあった周知について、例えば気象台が他のお知らせをする際に二次元コード等を加えるというアイデアをいただいた。その他に、学校現場に周知する良いアイデアがあれば伺いたい。

(委員) 札幌市で言えば、大体どこの学校も同じような時期に同じ内容を学習している。札幌市の「教育課程編成の手引き」に沿って学習を進めていることが多いので、その時期に合わせてチラシ配布等、何らかの方法で学校にお知らせすると、タイムリーなものであれば先生方は使うのではないかなと思う。または、単元とそれを学ぶ時期は、その手引きに沿って大体決まっているので、学習資料がそれに対応した一覧になっていると、札幌市の先生方に限定していれば利用できるのではないかなと思う。

(気象台) その手引きや、どのタイミングで気象についての授業が実施されるかといった情報は、先生方に相談するのが良いのか。

(委員) 「教育課程編成の手引き」というものがあり、それはどこの学校にも札幌市教育委員会から配布されており、PDF データとしても存在するので、教員であればみんな調べられるような状況になっている。

(気象台) こちらでも勉強する。先生方にタイムリーなタイミングでお知らせするのが良いというのは承知した。

(委員) 確かに先生方が授業を行う時期が近づくと、何か情報が無いかと探すことはあるので、周知されていれば、その時に調べようと思うかもしれない。また、手引きに関連して言うと、再来年度は教科書が改定されるので、それに合わせて手引きも作り直す。その時に、手引きの備考欄に、社会科であれば、このようなことが調べられるという紹介が掲載されているので、そこに載せてもらえれば見ると思う。先生方は、防災の単元であれば、気象台のこの防災のページを見て授業をやろうかなと思う人も出てくるのかな、と思う。現行の手引きにも、いくつか掲載されていたと思うので、1つの方法かなと思う。

(委員) 今、話題に挙がっていた「教育課程編成の手引き」は、検索エンジンで探すことができるので実物をみていただければ。この10年間で、これが教員にとってのマニュアル的なところがあり、この手引きに何とか気象台のホームページのここを見れば関連素材がある、ということ載せてもらいたいということで、働きかけていたことがある。

ただ、もう時代は変わってきたので、例えば研修会向けの案内などを印刷して送付していたと思うが、それよりは、例えば気象台のホームページにこんな情報がありますということ、二次元コードから入れるということ、メール等で案内した方が、すぐ二次元コードを読み込めるので良いと思う。

(気象台) 個人的には、メールは気象台からの宣伝メールのような形になるので、あまり見てももらえないかなと思っていた。先生方にはどのようにしてメールを送ることができるか。

(委員) 例えば研修会のチラシについては、おそらく教育委員会を通して教頭宛てにメールで

送付していたと思う。気象台から直接ではなく、教育委員会を通していたと思うが、今回の懇談会も校長会に関わっていただいているので、校長会からお知らせしたいということであれば、教育委員会を通してメールでお知らせできると思う。

例えば、運動会の日々の天気予報など、気象台に提供していただいているが、あれは気象台からの情報を教育委員会から全ての学校に配信しているので、そのようなやり方も可能かなという気がしている。

(気象台) 日頃のお付き合いの中でお知らせするという形が良いと承知した。

あと2点、「出前授業」と、「教師と協力した授業づくり」について、前回の懇談会で話題にあがった。前回の第1回懇談会の時にも、コロナ禍でだいぶ授業のやり方が変わってきたというお話を伺った。そこから、マスクも個人の判断に委ねる、あるいは5月には5類に変わるという社会情勢の変化もある。例えば出前授業について、夏と比べてまた雰囲気が変わってきたとか、あるいはまだ変わってないといったお話について伺いたい。

(委員) 出前授業になると研究会をするよりも教員側からするとハードルが下がる。やっていただきたいと思う先生は増えるのではないかな。現時点でも、本校では出前授業で、例えば6年生で税に関する授業、4年生で除雪に関する授業がある。他にもいくつかあるが、いずれも好評である。直接子どもたちに指導していただく形になるので、出前授業はもし可能であるならば、研修会を実施してエネルギーをかけるよりも、やりやすいかなと思う。

(気象台) 先生の方のハードルは低いということで承知した。

(委員) 本校でも来年度は出前授業に来てもらう予定なので、やりやすいのかなと思う。また、オンラインの良さもあり、お互いに繋いでできるという点で今後も活用されていくのかなと思う。出前授業を行うには、おそらく何を伝えてもらうかということがとても大事にはなってくると思うので、その単元の何を聞きたいのかというニーズが大事になってくるかな、と感じていた。例えば、4年生の社会科の防災の単元であれば、自分が授業でこんな準備をするということを考えて後で、専門家の立場から、「この地域には、こんな危険があるから、こういう準備が必要で、こういう被害が起きそうだ」という内容を具体的に説明してもらおうというような、専門家としての知識が活かせる場面で伝えていただけると大変ありがたい。それぞれの単元でどのようなところが大事になってくるかということ洗い出していくと、ニーズは出てくるかな、というように感じる。

(委員) コロナが明けて学校も動き出すので、たくさんリクエストが来るのではないかなと思うので、気象台の方には、そこを受けてやっていただけたらと思う。

それから子ども向けということで、まず時間について。皆さん話したいことが多くスライドも多いが、時間を大事にするということと、子どもでも分かる内容にすることに気を付けてほしい。出前授業を実施してみて、そこで発生した悩みや困りごとをこの懇談会で出していただけて、どうやって出前授業をやっていくのかということも話し合えたらいいのではないかなと思う。

もう1つ、この「出前授業」と「授業づくり」の関連で言うと、先ほどお話にあった授業というのは、教師主導型で教師がきちっとした授業案を持っていて、この部分を専門家の方にお話しいただくとより分かりやすく、子どもたちも納得できる、という場面で気象台の方に登場していただいたということである。

以前行った理科の授業では、雲がどのように出来るかということ、気象台の方が授業の中で説明してくださった。社会科の授業では、どんなところに気をつけるかということ、気象台の方が授業中に5分ぐらい、子どもたちの考えたことに対して答えるという形式だった。それがおそらく当時目指していた授業づくりで、気象台とコ

ラボしながらやる出前授業でもあり、授業づくりにも参加するという部分だと思うが、これは相当難しい。なかなかできないと思うので、まずは出前授業をやっていく中で、学校とのコラボというあり方を考えていただければと思う。

(気象台) 気象台も当然マンパワーに限られるので、慎重に検討したいと思う。ただし、今までいただいたご意見の中で、出前授業は比較的ハードルが低いのかなと思う。こちら側にしても学校側にしても、ハードルがだいぶ低いのかなという印象を受けた。それを踏まえて今後、コロナの様子を見つつの検討になるかと思うが、進めていきたいと思う。

今、先生と協力した授業づくりについてコメントをいただいたが、私の中では、出前授業は気象台の職員が授業を行い、教材の作成というのは、コンテンツという意味で作成するというイメージがあった。先生と協力した授業づくりというのは、授業そのものをどう進めていくかを先生たちと考えていきましょう、というイメージであった。最後に、先生と協力した授業づくりについて、気象台が何をできるかという率直なところも含めて、ご意見をいただきたい。

(委員) うちの学校に出前授業に来ていただくのは、ごみのことや、それから除雪、移動プラネタリウムなどがあり、色々と教えていただく時間が多い。子供たちが知らないことを教えていただき、なおかつ体験させていただき、最後に質問をする。そのような流れの出前授業がほとんどかなと思っている。だから、先生方のニーズがどの辺にあるのかは、簡単には言えないかもしれない。自分が授業をした時も、気象台の方が話し始めた途端に教室の空気が変わったというか、やはり専門の方と私たち教師が教えるのとでは、子供たちの受け止め方が違う。だから、せっかく来ていただくからには、そんなところに期待したいと思っている。

(気象台) 気象台からの資料提示が遅かったため、委員の先生方に準備の時間があまりなかったにも関わらず、ご意見をいただきありがたい。

(委員) コラボして授業を作る場合には、授業を作る段階で、「専門的な立場として、捉え方は合っているのか」という情報をいただくことが、1つ大事になってくるかと思う。あとは、今、お話があったように、授業の場面で専門家として分かりやすく伝えてもらえること、授業を作る上ではその2点について協力していただけると一番ありがたい。

ただ、問題としては何のために授業をするかということである。防災をテーマに授業をするという前提が無ければ、なかなかコラボして授業を作ることは難しいのではないかと思う。先ほどのお話にもあったが、まずは出前授業でそれこそ、誰かが「防災について授業をしたい」というニーズがあった時に関わることができればいいのではないか。来年度やらなければいけないという前提になると、苦しくなると感じた。

(委員) 今まで研修会に参加いただいた先生方は、やはり防災意識の高い先生だと思う。そういう先生方が「こんな授業をしたい」とか「こんなことをしたい」という、大義を持っていた。この、先生方がまず何々したいと思うか、思っていないか、ここがたぶん授業づくりにとっては一番の肝になる部分である。札幌は、おそらく、あまり危機感がないと思うが、釧路地方や日高地方などの太平洋側の地域では、今、津波について、ずいぶん関心が高まっているので、そのあたりで先生方が「防災授業をするには、どうしたらいいのか」という声が上がっていないだろうか。

3.11に関して、学校教育というものとどのように連動してきたか、テレビ番組でずいぶん取り上げられていた。しかし、北海道の場合は片田先生のようなオピニオンリーダーになれるような大学の先生が今いらっしゃらないので、気象台が中心になってその声を拾って授業化できたら、素晴らしいと思う。

(気象台) 気象台としても今、日本海溝・千島海溝の海溝型地震が危ないことが分かってきたところである。地震の話なので、来年起きるとか起きないとか、そういうことは当然分



からないが、ちょうど周期的にそろそろという時期になっている。そのような状況だということが分かってきて、それに関する情報とかも出しており、そういった社会的にもあるいは現象的にもタイムリーなものをまずは取り上げてみるというのは、大事だとお話を伺いながら感じた。他にも何かこの機会に気象台へのコメントがあればお願いしたい。

(委員) 今おっしゃったことが全てだと思う。気象台として、実は太平洋側の地震が心配だ、いつ来てもおかしくない、という、その「生の情報」こそが防災教育である。札幌管区気象台が中心になって行う防災教育の根幹になるのではないかと思う。逆にその気象台の気持ちを受け止めて、じゃあ学校は何ができるのか。防災教育が確かに学習指導要領に入ったが、正直言って学校現場は何も変わっていない。

今起きないでほしい、でもいつ来てもおかしくない、そういうものが目の前に迫っていて、命を救うために気象台として学校として何ができるのか、それだけである。要素は今言ったような4つの要素になるが、それがうまくかみ合ったときに、防災教育の何が必要なのか、どんな取り組みを行っていけばいいのか、ということが見えてくるのかなと思う。ぜひ、何か良い形になって進んでいけばいいなと思う。

(気象台) 今、もちろん地震についてはタイムリーであり、もちろん切迫感や危機感があるが、例えば気象についても、危機感というか、今タイムリーな現象としては、思いつくところでは線状降水帯がある。ただそういう新しいものではなくても、先ほど申し上げたが、基礎的なこととして、大雨が降ったら危ないよというのは、繰り返し、新しい情報、新しい現象ではなかったとしても伝えていかなければならないと思うので、その危機感を気象台としてどう持っている、どう伝えていくかというのは、考え続けるものかと思う。

(作成：事務局)